2/15
平成9年（1997年）
№640

広報むこう

2月は少エネルギー月間
室内温度は19℃を目安に

●発行　向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）　●編集　秘書広報課　◎電話　075(931)1111

地域ぐるみで火災予防を！

今年になって多発

すでに　火災3件　小火8件

油断や不注意　不審火が原因にも

前年の火災件数は過去最少のタイ記録である2件と、大変良好な結果になりました。

しかし、今年に入ってからは2月5日現在で既に火災が3件、火災に至らなかった消防事故（小火）が8件とその件数はハイペースで増えつつあります。

特に最近はちょっとした油断や不審火が小火や火災の原因にもなっています。

これからまだまだ空気の乾燥や風が吹く日が続きます。火災の大半は人の不注意によるもの、火を使う以上は使う人がしっかりと管理し細心の注意を払う心構えが大切です。また、放火などを防ぐために家の周囲に燃えやすいものを置かないようにすることも必要です。地域ぐるみで防火防災の対策を更に強化しましょう。市民のみなさんのご協力をお願いします。

年別火災発生状況

区分		平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
火災件数		8	6	18	2
火災原因	建物火災	5	5	10	1
	車両火災	2	1	1	
	その他火災	1		2	1

火災等発生状況まとまる

平成8年中

◎火災（減少）

昨年1年間で発生した火災は2件で、一昨年と比べると11件の減少となりました。その内訳は建物火災1件、その他の火災1件でした。

これを全国の出火率（人口1万人当たり5件）と比較すると、向日市の人口規模では統計上26件の火災が予測されることから、この低い出火率は良好な結果といえます。

また出火にいたらなかった消防事故（小火）については昨年1年間に33件発生し一昨年に比べて7件の減少となりました。内訳としては交通事故によるガソリンの流出12件、風呂の空たき4件、ガスコンロの消し忘れやテンプラ油の過熱3件、火遊び3件、放火または放火の疑い2件等となっています。

消防事故は市民の早期発見による通報や、初期消火など地域ぐるみの適切な活動により大事にいたらなかっただけで、ひとつ間違えると大火の恐れがあった事例も少なくありませんでした。

今後も、更に火災を減らすため、町内会の消火実験会、火災予防運動などあらゆる機会を通じて、火災予防のアピールに努めます。

◎救急（増加）

昨年1年間の救急事故発生件数は1185件で一昨年に比べて6件の増加となり過去最高を数えました。内訳は、急病598件、交通310件、一般の負傷162件、運動競技27件、加害17件、労働災害7件、自損4件、その他60件で、一日の救急事故発生件数は約3・2件となりました。

搬送人数は1177人で、年代別に見ると、最も多いのは70歳以上の216人で急病での取扱が目立っています。

ついで20歳代の186人で交通事故関係が多くなっており、60歳代では161人、50歳代153人、10歳代134人、0～9歳118人、40歳代117人、30歳代92人の順になっています。

今後ますます救急の必要性が予想されます。そのために、救急職員の応急処置技術の向上や高度な知識の習得を図り、市民の皆さんへ講習会等を通じて心肺蘇生法等応急手当の普及や啓発活動に努めていきます。

◎救助

交通事故などで車内に閉じ込められた人を救助するための救助出動は昨年は12件発生しており、内訳は交通事故に起因するもの10件、建物に関するもの2件となっています。

油流出事故

相互援助物資敦賀市へ

網野町に職員派遣

向日市では、1月28日に福井県敦賀市からの要請をうけて、日本海でのタンカーの重油流出事故で、漂着した重油の回収作業に使われる手袋2000双とマスク500枚を支援物資として1月29日に現地に届けました。

また、㈱ニッカポリマ（向日市鶏冠井町南金村）から、現地のドラム缶不足に対応するために重油回収用に天空ドラム缶（上部が開いたもので蓋付き）50本が提供され、同時に敦賀市に向けて輸送されました。

これらは、阪神・淡路大震災の教訓をうけて、遠隔地で被害の及ばない他府県の市町村同士が、備蓄している物資等を必要に応じて相互に融通しあう相互援助協定に基づいて行われたもので、今回が初めての発動になります。

また、2月6日には向日市を含む南部5市から網野町へ職員150名が派遣されて、現地の皆さんと共に重油回収作業に励みました。

重油の回収に精を出す向日市職員ら（下）

輸送用のドラム缶を積みこむ（左）

ボランティア保険　現地で受付

重油回収作業に従事されるボランティアの方が手軽に保険の加入ができるよう、活動現場付近にボランティア保険加入の受付場所を設けます。

対象地域は当面は網野町、丹後町、久美浜町ですが、舞鶴市、宮津市、伊根町で現に重油の回収作業に従事している方についてもボランティアとしての位置付けが可能な場合には加入できます。

取扱等の内容は、①ボランティア活動希望者は、現地の受付場所で加入手続きを行います。②保険料一人300円は、京都府社会福祉協議会が支払います。③補償期間は、加入手続き終了後から平成9年3月31日までです。

実施主体　京都府社会福祉協議会　☎252－6295。

参加者募集

タンポポの分布調査

わたしたちのまちの自然観察

環境対策課

春の野を彩るタンポポはどこのまちにも見られ、最も親しまれている植物です。

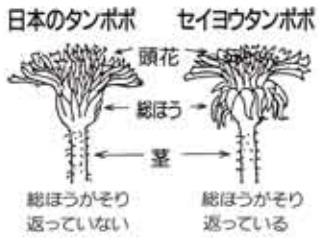
自然が豊富に残っているところには、昔からある日本のタンポポが咲いています。逆に市街地等、人の手が加わったところには、外来種であるセイヨウタンポポが見られます。この2種類のタンポポの分布を調べることによってあなたのまわりの自然度を知ることができます。

■**調査方法**　500mメッシュ（各市町ごとに500m四方のブロックに分けたもの）の1ブロックを受け持っていただきます。この範囲内に咲いているタンポポの種類、株数、場所等を記録用紙、地図に記入して報告してください。

■**調査期間**　4月1日㈫～5月5日㈪（都合のよい日時に調査をしてください）

■**参加資格**　乙訓2市1町在住者、または勤務、通学している個人、グループ、家族。小学4年生以下は、家族または18歳以上の人と一緒に申し込んでください。

■**申込み・お問い合わせ**　3月19日㈬までに、電話かハガキ（住所・氏名・年齢・電話番号を記入）で〒617向日市寺戸町中野20向日市役所環境対策課（内線227）へ。

※参加者には記念品を進呈。

■**主催**　乙訓保健衛生事務協議会公害部会（向陽保健所・向日市・長岡京市・大山崎町）